

アナログプレイヤーの比較試聴(1)

—モーツアルトを聴く(1)—

1. 始めに

アナログプレイヤー3機種が揃いましたので、比較試聴を実施していきます。

2. アナログプレイヤーの比較試聴方法

[ThorensTD124の導入\(11\)](#)においてアナログ再生系の比較試聴を実施しました。

その後 LINN LP-12 の電源の改造を行い、LINN LP-12 の再構成(34)で報告しています。

これらの最新の状態は下記のとおりです。

ThorensTD124

[ThorensTD124の導入\(10\)](#)

TD124→MySonic Stage1030→Maranz7 タイププリ→TruPhase

カートリッジは SPU Synergy、アームは RMG212 、トランスは MySonic

Stage1030、フォノステージは若松通商 Maranz7 タイププリのフォノ入力段です。

LINN LP-12

[LINN LP-12の再構成\(32\)](#)

[LINN LP-12の再構成\(34\)](#)

LP-12→ZANDEN Model 120(バランス入力)→Brooklyn DAC+(Line 入力)→

TruPhase

カートリッジは MySonic Signature Gold、アームは Glanz MH-9Bt、トランスは ZANDEN Model120 の内蔵トランスで、フォノステージは ZANDEN Model120 へのバランス入力です。

Grrad401

[Garrad401の再構成\(15\)](#)

Garrad401→ZANDEN Model120(アンバランス入力)→Brooklyn DAC+

(Line 入力)→TruPhase

カートリッジは ZYX R100-EX、アームは FR-64S、トランスは ZANDEN Model120 の内蔵トランスで、フォノステージは ZANDEN Model120 へのアンバランス入力です。

音源は、モーツアルトのアナログ盤を使用していきますが、まずは、弦楽四重奏から始めます。

Eurodisc(日本コロンビア) OP-7025-K

モーツァルト 弦楽四重奏曲第 14 番ト長調
弦楽四重奏曲第 15 番ニ短調
ベルリン弦楽四重奏団

3. アナログプレイヤーの比較試聴結果

今回はモーツァルトの中期の弦楽四重奏曲です。

ZANDEN Model120 経由の LINN LP-12 と Grrad401 では、Eurodisc 盤ということで、TELDEC、逆相、第 4 時定数 Mid で聴いていきます。

ThorenTD124 の再生では、これまでの SPU のダイナミックさは感じられず、より繊細な表現も出ています。

LINN LP-12 の再生では、電源改造等の効果もあって、ディテールの再現に優れ、バランスが取れており、音の揺れがなく、安定したパフォーマンスを示しています。

Grrad401 の再生では、ZANDEN Model120 の特徴が出て、これまでになかった細かい表情が出ています。

4. まとめ

3 機種 3 様の再生パフォーマンスが確認できましたが、すべてこれまでになかったレベルです。

以上